

第7回「21世紀出生児縦断調査（平成22年出生児）」のポイント

平成30年5月に厚生労働省が公表した「21世紀出生児縦断調査（平成22年出生児）」の第7回（平成29年）によると、子どもが放課後に過ごす場所は「自宅」、子どもがいて良かったと思うことでは「子どもの成長に喜びを感じる」、子どもを育てていて負担に思うことや悩みでは「子育てに費用がかかる」の割合が高くなっています。調査のポイントを紹介します。

1. 調査の概要

21世紀出生児縦断調査は、21世紀の初年である平成13年に出生した子（出生児）を継続的に観察している調査と平成22年出生児との比較対象等を行うことにより、少子化対策などの施策のための基礎資料を得ることを目的としている。

第7回調査では平成22年出生児を対象とし、第1回調査から協力が得られた25,397人について集計しており、調査対象者の年齢は7歳（小学1年生）となっている。

2. 子どもの生活の状況

（1）起床・就寝時間

平成22年出生児の起床時間をみると、午前7時前の割合は登校日が86.2%、休日が36.7%。就寝時間をみると、午後9時前及び午後9時台の割合は登校日が89.8%、休日が73.8%となっている。

平成13年出生児と比較すると、起床時間については、登校日及び休日のいずれも午前7時前の割合がそれぞれ9.6%、6.9%上昇しており、就寝時間についても、登校日及び休日のいずれも午後9時前及び午後9時台の割合がそれぞれ2.2%、9.5%上昇している。登校日、休日とも、規則正しい生活が行われている（図表不掲載）。

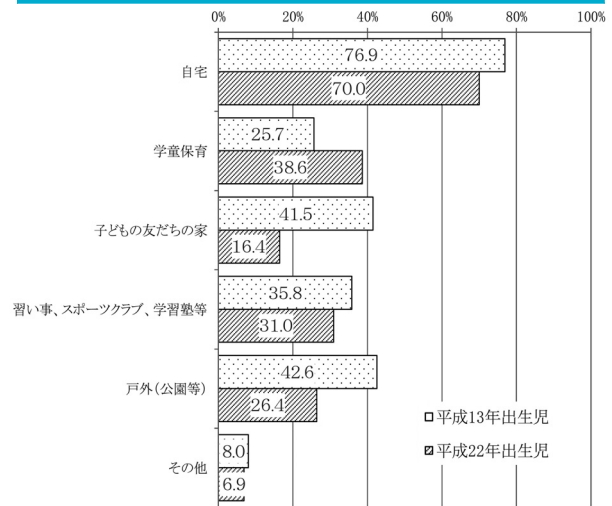
（2）放課後に過ごす場所

平成22年出生児について、放課後に過ごす場所（複数回答）をみると、「自宅」が70.0%と最も高く、次いで「学童保育」38.6%、「習い事、スポーツクラブ、学習塾等」31.0%の順となっ

ている。

また、平成13年出生児と比較すると、「学童保育」の割合が12.9ポイント高くなっており、それ以外は低くなっている（図表1）。

図表1 放課後に過ごす場所の世代間比較（複数回答）



注：1）第7回調査の回答を得た者（平成13年出生児総数 36,785、平成22年出生児総数 25,397）を集計。
2）「放課後」とは、ふだんの下校から午後6時頃までの間をいう。

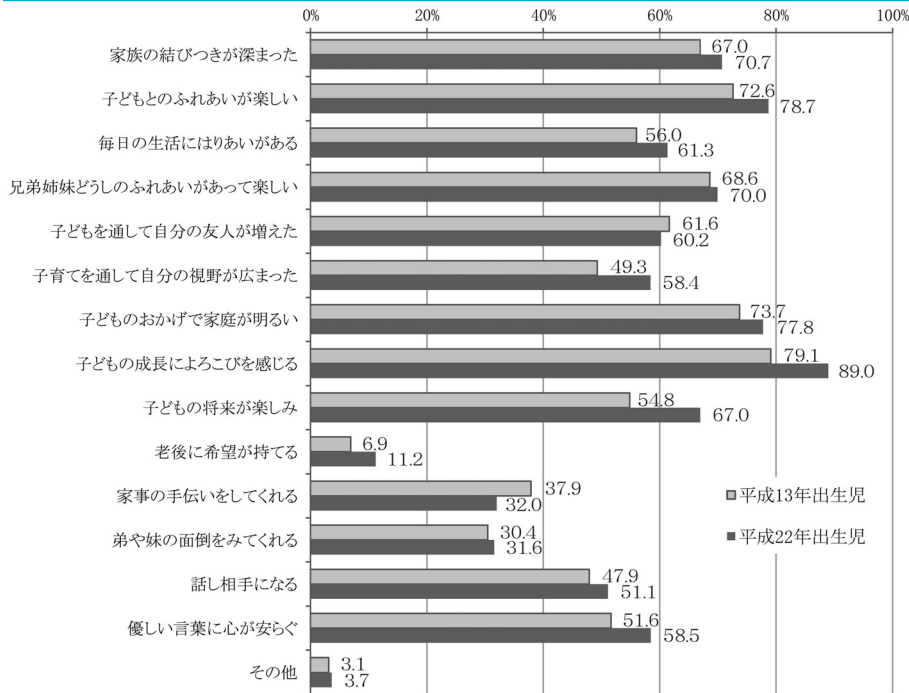
3. 子育ての意識等

（1）子どもがいて良かったと思うこと

平成22年出生児について、子どもがいて良かったと思うことの内容をみると、「子どもの成長による喜びを感じる」が89.0%と最も高く、次いで「子どもとのふれあいが楽しい」78.7%、「子どものおかげで家庭が明るい」77.8%の順となっている。

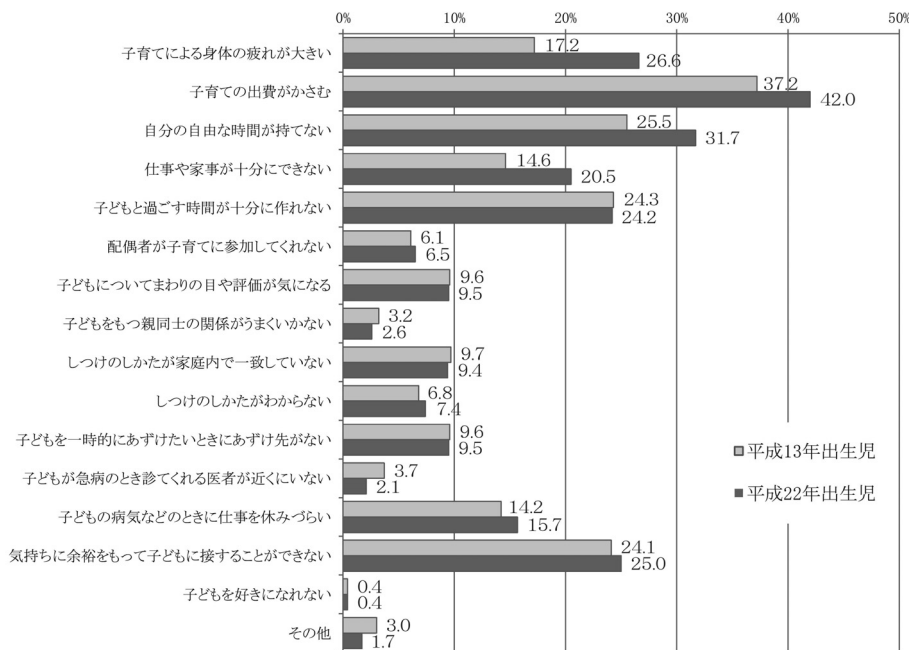
平成13年出生児と比較すると、割合が最も上昇したのは「子どもの将来が楽しみ」の12.2ポイントで、次いで「子どもの成長による喜びを感じる」の9.9ポイントの順となっている（図表2）。

図表2 子どもがいてよかったと思うことの内容の世代間比較（複数回答）



注：第7回調査の回答を得た者（平成13年出生児総数 36,785、平成22年出生児総数 25,397）を集計。

図表3 子どもを育てていて負担に思うことや悩みの内容の世代間比較（複数回答）



注：第7回調査の回答を得た者（平成13年出生児総数 36,785、平成22年出生児総数 25,397）を集計。

（2）子どもを育てていて負担に思うことや悩み
平成22年出生児について、子どもを育てていて負担に思うことや悩みの有無をみると、「負担に思うことや悩みがある」が75.2%となっている（図表不掲載）。

もに接することができない」等の意見もあります。

今後、家族の絆がさらに深まり、互いに協力しながら、子育てに関する悩みが解消され、より良い家庭や社会が築かれることが望まれます。

（中井正人）

また、子どもを育てていて負担に思うことや悩みの内容（複数回答）をみると、「子育ての出費がかさむ」が42.0%と最も高く、次いで「自分の自由な時間が持てない」31.7%、「子育てによる身体の疲れが大きい」26.6%の順となっている。平成13年出生児と比較すると、割合が最も上昇したのは、「子育てによる身体の疲れが大きい」の9.4ポイントで、次いで「自分の自由な時間が持てない」の6.2ポイントの順となっている（図表3）。

子どもがいてよかったと思うことの内容をみると、「家族の結びつきが深まった」「子どもとのふれあいが楽しい」「子どもの成長によるこびを感じる」等の意見が増え、家族の絆を大事にする傾向が強まっています。

一方で、子育てにおいて負担に思うことや悩みの内容で「子育てによる身体の疲れが大きい」「気持ちに余裕を持って子どもに接することができない」等の意見もあります。